

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 1 生徒一人ひとりの持てる力を最大限に引き出す学校
- 2 希望する進路が実現できる学校
- 3 社会人として通用するマナーと社会人基礎力（考え抜く力、行動する力、コミュニケーション力）が獲得できる学校
- 4 質の高い教育により、人間性豊かな人材を育成する学校
- 5 生徒及び保護者が「入学して（入学させて）良かった」と思える学校

## 2 中期的目標

<※平成 26 年度からの 3 年間目標>

## 1 基本的な生活習慣を自らコントロールできる生徒の育成 — 生徒指導の充実 —

- (1) 「学校全体で生徒指導に取り組む」体制を再確認し、一枚岩として生徒に対応する。
- (2) これまでの遅刻指導を継承し、更なる遅刻数減をめざす。
- (3) あいさつ運動を展開し、活気ある学校の実現をめざす。
- (4) 社会人として通用するマナーの定着をめざし、全教員が怠ることなく様々な場面でマナー指導を徹底する。
- (5) 社会人基礎力の獲得をめざし、生徒が考え行動しコミュニケーションする機会を増やす。

※生徒向け学校教育自己診断における規律に関する項目における満足度（平成 25 年度 77%）を毎年 3%引き上げ、平成 28 年度には 86%にする。

## 2 夢や目標に向かって自ら努力できる生徒の育成 — 進路指導の充実 —

- (1) 現行の「3 年間を見通した進路指導」を発展させ、新しい教育システムに適合したキャリア教育指導を再構築する。
- (2) 教育課程の再編を通じて現行の授業内容も見直し、より個々の進路希望に対応できる授業の実現を図る。
- (3) 授業アンケートの結果に基づき、教員自らが教材や授業内容の改善を図ることができるシステム等の構築をめざす。
- (4) 朝の SHR 時に実施している小テスト（＝教養）を継承・発展させ、いっそうの基礎学力向上と家庭学習の定着を図る。

【進路成果指標】3 年生時点における第 1 志望大学の合格率 90%以上。国公立大学及び難関私立大学合格者数の合計 15 名以上。

※生徒向け学校教育自己診断における進路実現に関する項目における満足度（平成 25 年度 80%）を毎年 3%引き上げ、平成 28 年度には 89%にする。

## 3 文化・芸術・スポーツを愛し、心豊かな感性を持つ生徒の育成 — 特別活動の充実 —

- (1) 部活動加入率 80%を目標に、部活動への参加を働きかけ学校の活性化を図る。
- (2) 情報発信基地として図書館を活用するなどし、図書活動の更なる推進を図る。
- (3) 校内美化及び緑化を推進し、心休まる校内環境を実現する。
- (4) 国際交流を通して異文化の多様性を理解する国際感覚を養う。

※部活動加入率（平成 25 年度 66%）を毎年 3%引き上げ、平成 28 年度には 75%にする。

## 4 地域や社会で貢献できるボランティア精神を持つ生徒の育成 — 地域連携の充実 —

- (1) 地域の中学校を交えた大会（＝クリスタルカップ）を全校化するなど、様々な教育活動における中高連携を推進する。
- (2) 生徒会などと連携し、学校広報活動（学校見学会、体験入学等）への生徒の参加を推進する。
- (3) 交通安全指導の徹底や校外立ち番などの実施を通して、地域から寄せられる苦情電話の減少をめざす。
- (4) 「地域との連携」を生徒会活動の一つの柱として根付かせることを目標に、地域の清掃活動等、生徒を地域に出向かせる機会を増やす。

※生徒向け学校教育自己診断における地域連携等に関する項目における満足度（平成 25 年度 43%）を毎年 5%引き上げ、平成 28 年度には 58%にする。

## 5 人の立場に立って考えることの出来る豊かな人権感覚を持つ生徒の育成 — 人権教育の充実 —

- (1) 安全安心な学校づくりを推進し、誰もが笑顔で登校できる学校をめざす。
- (2) 「人権教育基本方針」や「人権教育推進プラン」などに基づいて人権教育を推進し、差別を許さない力と意志を持った生徒の育成をめざす。
- (3) 海外語学研修等の機会を通して、国際社会に通用する人権意識を持つ生徒の育成をめざす。
- (4) 相談室委員会を活性化させ、様々な課題を持つ生徒をこれまで以上にサポートできる環境を醸成する。

※生徒向け学校教育自己診断における人権教育等に関する項目における満足度（平成 25 年度 65%）を毎年 3%引き上げ、平成 28 年度には 74%にする。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【進路指導等】</p> <p>○「進路実現に向けて適切な指導がある」の項目で肯定的回答が昨年度の 80%から 85%と 5%上昇した。今年度の重点項目であり、様々な取組みが好結果に繋がったものと考えられる。次年度においても更なる取組みの強化をすすめる。</p> <p>【学習指導等】</p> <p>○「授業がわかりやすい」の項目で肯定的な回答が 63%と、昨年度より 3%上昇。組織的な授業力向上に向けた取組みと、昨年度のパッケージ研修を契機に始まった教員側の授業改善への取組みが現れたものとする。</p> <p>○「家庭での学習時間を確保している」の項目において肯定的な回答が昨年度並みの 43%であった。宿題等に頼らない、生徒が自主的に学習に取り組めるような仕掛けが必要である。</p> <p>○「授業で発表の機会がよくある」の項目における肯定的回答が 37%と、昨年度より微増にとどまったが、普通科総合選択制に関する 3 年生向けのアンケートにおいては、「プレゼン能力の向上」の満足度が昨年度より 6%増加した。教員側の授業改善に向けた取組みの現れである。</p>	<p>第 1 回 (6/22)</p> <p>○平成 27 年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数値目標について、既に高いスコアを更に引き上げることは難しい。例えば図書貸出し数の向上を目標にするよりは、いかに図書館を有効に活用しているか等を指標にする方法もある。</li> <li>・授業見学について、経験の浅い教員同士の見学に留まらず、先輩教員の授業を見学させている試みは良い。</li> </ul> <p>○次年度採用予定の教科書について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今はどの教科書も見やすく、写真を多く取り入れており、分かりやすい。</li> <li>・就職後に、勤労者としての権利をよく知らない新人社員が多い中、ぜひ就労に向けた教育もお願いしたい。</li> </ul> <p>第 2 回 (11/4)</p> <p>○授業アンケート（第 1 回）の集計結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年が高くなるに従って、良好な結果が増えていくことは喜ぶべきことだ。それだけ生徒の意識が高まっていることを表している。</li> <li>・スコアが振るわない教員については、どのような授業を担当させるか、働きどころを配慮することでやる気を引き出すことを考えることも大事だ。</li> <li>・授業は「分かる」ことが大切だ。最近の生徒は、授業のポイントが分からない者が多い。答えのみを書くに留まっていたり、ノートをうまくまとめる力が弱いように思う。</li> <li>・アンケートの中の自由記述欄の記載も参考になる。不満の中に手がかりが隠されているものだ。</li> </ul>

## 府立八尾翠翔高等学校

<p>【学校運営】</p> <p>○「行事は楽しく行えるように工夫されている」の項目で肯定的回答が53%と、昨年度より微増にとどまった。生徒会行事において様々な取組みを進めているが、更なる改善が必要である。</p>	<p>・このアンケート結果のみでは学校選びはできない。クラブや生徒指導等、総合的な判断も必要だ。</p> <p>○授業改善の取組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、「導入」と「まとめ」にかける時間が重要で、適切に重要ポイントを説明する手法など、若手教員はベテラン教員からこのあたりを学んでほしい。</li> <li>・厳しいだけの授業も考えものだ。ジョークを交えて話をしたり、子どものニーズに合わせていくことも大切だ。</li> <li>・プリント授業とノートの取り方も関連する。プリント授業が増えた結果、ノートの取り方が分からない生徒も多いのではないか。レポートの書き方、ノートの取り方も教えていく必要がある。</li> </ul> <p>第3回 (2/3)</p> <p>○学校教育自己診断の結果から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣では「指導のきっちりした高校」という声が多い。教員の熱心さが伝わり、非常に学習熱心な学校だと保護者は考えている。</li> <li>・授業でのICT活用がやや少ないようだが、大学でもこれには疑問があり、パワーポイント等を使うと、学生の筆記と理解の力が身に付かないという意見もある。一概にICT活用が良いかどうかは議論のあるところだ。</li> <li>・子ども会活動などを活発にやっている生徒は、人前で話ができるリーダーシップもとれるので、小さい時からの積み重ねが大切だ。</li> <li>・若手教員の育成についても、全校生徒全員の前に立って話をする経験などさせることが有効かもしれない。校内研修などを若手教員に企画させたり、中学校等との相互の交流や研究授業などの機会を持つのも良い。</li> </ul>
---	--

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒指導の充実	(1) あいさつ運動の推進  (2) 社会人基礎力の獲得	(1) 教員からのあいさつを積極的に行うとともに、生徒会及び部活動係と連携して生徒会役員やクラブ員によるあいさつを徹底させることで、校内にあいさつしやすい雰囲気醸し出す。  <input type="checkbox"/> 選択授業等を通して幼保・小・中との連携を進め、その活動の中で生徒が能動的に発表する場面を積極的に設定する。  <input type="checkbox"/> 授業やHR活動にディベートなどを取り入れ、生徒が自ら考え発表する機会を取り入れていく。	(1) 生徒向け学校教育自己診断における学校生活等の項目における肯定率を5%向上 ※平成26年度54% → 59%目標  <input type="checkbox"/> 生徒向け学校教育自己診断における他校種との連携等の項目における肯定率5%向上 ※H26年度41%  <input type="checkbox"/> 生徒向け普通科総合選択制アンケートにおけるプレゼン能力の満足度10%上昇 ※H26年度49%	(1) 全校的な取組みとして定着してきた。来年度は、生徒がより学校での生活に喜びを感じるよう取組みを充実させる。58% (◎)  <input type="checkbox"/> 今回比較指標を授業アンケートに変更したが、肯定率は85%。また、他校種との連携の機会を新たに設けることができた。(○) <input type="checkbox"/> 生徒を動かす授業はかなり増えてきた。来年度はプレゼン能力の育成を第一に掲げ、重点的に取組んでいく。55% (○)
2 進路指導の充実	(1) キャリア教育指導の再構築  (2) 授業改善に係るシステムの構築  (3) 系統立てた教科指導の確立  (4) 授業内容の見直し  (5) 家庭学習の定着	(1) <input type="checkbox"/> 普通科専門コースへの改編に伴い、新しいシステムに適合した進路選択及び科目選択のガイダンス等、進路指導と教務作業の連携を強化し、スムーズな改編移行を実現する。 <input type="checkbox"/> キャリアガイダンスセンター(新設)を活用した調べ学習やセミナー等を通して、生徒の進路意識高揚を図る。  (2) 教員相互の授業見学・授業研究の機会をこれまで以上に増やし、教員の授業力の更なる向上をめざす。  (3) 教科会議で育てたい生徒と身に付けさせたい学力を確認し、教科として3年間の指導計画を作成する。  <input type="checkbox"/> ICT 機器や視聴覚教材を活用して授業展開に工夫を加えるなど、生徒の学習意欲向上に繋がる授業づくりを推進する。  <input type="checkbox"/> 授業の中に、グループでの話し合いやペア学習などの生徒による言語活動を組み込み、生徒が学び取る授業の構築をめざす。  (5) 授業や朝の小テスト(週2回実施)に関わる課題に工夫を加えるなどして、生徒が家庭学習に取り組むための時間を増加させる仕掛けづくりをすすめる。	(1) <input type="checkbox"/> 及び <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ①生徒向け学校教育自己診断における進路指導等の項目における満足度3%上昇 ※平成26年度79% → 82%目標 <input type="checkbox"/> ②卒業時の国公立大学及び難関私立大学合格者数の合計15名以上  (2) 第2回授業アンケートにおける肯定的回答、全教科平均3%上昇 ※平成26年度77% → 80%目標  (3) 教科会議の開催回数と内容 ※H26年度：平均5回 → 10回目標  <input type="checkbox"/> 第2回授業アンケートにおける肯定的回答、全教科平均3%上昇 ※平成26年度77% → 80%目標  <input type="checkbox"/> 生徒向け普通科総合選択制アンケートにおけるプレゼン能力の満足度10%上昇 ※平成26年度49% → 59%目標  (5) 生徒向け学校教育自己診断における家庭学習状況に関する項目における肯定率を3%向上 ※平成26年度45% → 48%目標	(1) ①校内研修や各種委員会での議論が実を結んできている。来年度は、ガイダンス機能を強化し、生徒のキャリア意識の向上に向けて進める。 84% (◎) <input type="checkbox"/> ②19名 (◎)  (2) 研究授業や授業見学を呼びかけ、教員の授業にかける意識は高まっているが、まだまだ改善の余地がある。 79% (○)  (3) 生徒の学力内容の精査を教科会議で行うことが出来た。来年度は、教科間での議論が課題である。 平均8回 (○) <input type="checkbox"/> 教科会議等の議論を重ねる中、ICT機器活用の授業は増えた。教員の関心も高まっている。79% (○)  <input type="checkbox"/> ペア学習や話し合いの機会は増えてきた。ただ、授業の進度との関係が課題である。来年度の最重点課題として取組む。55% (○)  (5) 進路講演会等で、家庭学習の定着を呼びかけてきた。家庭の協力とともに、より具体的な方策が必要である。 43.0% (△)
3 特別活動の充実	(1) 部活動加入率の上昇  (2) 図書活動の活性化  (3) 校内美化及び緑化	(1) 生徒会や部活動係と連携し、1年生の入部率上昇をめざす。  (2) 図書活動活性化のめやすとして、図書貸出数と入館者数の増加をめざす。  (3) 保健部と連携し、日々の掃除等を充実させ更なる校内美化に取り組む。	(1) 1年生のクラブ加入率3%以上増加 ※平成26年度69% → 72%目標  (2) 図書貸出数・入館者数5%増加 ※平成26年度1700冊、4000名  (3) 清掃点検での「十分できている」のポイント5%増。 ※H26年度79%	(1) 生徒の状況を考えた場合、目標達成には課題が多い。来年度も入部率上昇に取り組む。61% (△)  (2) 図書館便りを定期発行し、生徒のニーズにも対応する組織作りを行った。 1750冊、4000名 (○)  (3) 清掃点検を頻繁に実施できた。美化意識は高い。80% (○)

## 府立八尾翠翔高等学校

4 地域連携の充実	<p>(1) 学校広報活動への生徒参加の推進</p> <p>(2) 生徒による地域進出の推進</p>	<p>(1) 学校で年に4回行われる中学生及びその保護者向けの説明会や体験入学において、生徒会役員・クラブ員・その他有志の生徒を積極的に参加させる。</p> <p>(2) 曙川東地区を中心に、清掃活動などといった生徒が参加可能な地域の取組みを調査し実際に参加させることで、地域に根付き地域から愛される学校をめざす。</p>	<p>(1) 広報活動への参加生徒数 ※H26年度：生徒会役員挨拶・クラブ員による体験入学の補助・生徒による説明の時間を設定。</p> <p>(2) 地域活動へのボランティア生徒の参加者数 ※H26年度：延べ300人</p>	<p>(1) 本校で行われるすべての説明会等について、生徒会及び全クラブ員の参加があった。来年度は生徒の主体性を育むような内容を加味し取り組む。(◎)</p> <p>(2) 今年度は、高齢者施設や近隣保育園などで、新たなボランティア体験を用意できた。来年はさらにこれを広げていく。 350人 (○)</p>
5 人権教育の充実	<p>(1) 安全安心な学校作りの推進</p> <p>(2) 生徒相談室の活性化</p>	<p>(1) 担任による生徒観察を充実させ、いち早く不登校や問題事象の兆候を感知できる教員力の強化をめざす。</p> <p>(2) 相談室委員会メンバーのスキルアップと保健室(養護教諭)との連携の深化を目的として、相談室委員会の保健室常駐実現など、これまで以上に生徒相談室の校内における位置づけを高める取組みを実行する。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断における先生との関係の項目における満足度3%上昇 ※H26年度59% → 62%目標</p> <p>(2) 生徒向け学校教育自己診断における教育相談等の項目における満足度5%上昇 ※H26年度50% → 55%目標</p>	<p>(1) サポート委員会等で担任と関係部署との連携を密に行っている。61% (○)</p> <p>(2) 校内研修等を通じて、教員のスキルアップに取り組んできた。来年度は生徒指導カードの活用も含め、さらに体制を強化していく。 54% (◎)</p>